

第 8 回小中高一貫教育総会【4月25日（月）於：浄るりシアター】

総会の目的

能勢の宝である『子どもたち』を学校・家庭・地域・行政が一体となって育てる。この目的を達成するために、各学校での連携がスムーズに進むよう、年度当初に能勢町の全教職員が顔合わせをし、昨年度の活動をもとに、本年度の活動予定等の共通認識を図る。

総会の概要

- 1、あいさつ 能勢町教育委員会 教育長 前田 満
- 2、来賓あいさつ 大阪府教育委員会 高等学校課参事 横山 強様
- 3、来賓及び能勢町教育委員会紹介
- 4、新任・転任者紹介を中心に学校紹介
- 5、成果報告 平成 22 年度能勢高校卒業生の報告
姫路独協大学へ進学して . . . 小林朋子さん
(歌垣小⇒東中⇒能勢高校)
和歌山大学へ進学して . . . 松田百子さんの保護者
(久佐々小⇒西中⇒能勢高校)
- 6、能勢町におけるイノベーションプロジェクトとは
- 7、能勢高校からの今年の取組み紹介
- 8、教科別担当者会
 - ①教科代表の決定
 - ②小中高の教科内容の交流

総会のまとめ

能勢地域小中高一貫教育は、「連携」がキーワードです。連携を積極的に推進することにより教育効果を生み出すことに挑戦してきました。また、学校間は児童生徒にとって、一貫した教育となるよう連携を密にし、異校種間のつなぎについての研究も深めてきました。総会はこのような研究を推進するために欠かせない大切な場として毎年開催しています。

総会では「小中高一貫教育の成果は子どもの成長した姿から見取る」ということで、卒業生から 12 年間の学校生活を振り返り、特に能勢高校の魅力についてを中心に話をしてもらうことになっています。本年度は、この春能勢高校を卒業した、歌垣小学校・東中学校出身の姫路獨協大学医療保健学部 1 回生の小林朋子さんと久佐々小学校・西中学校出身の和歌山大学観光学部 1 回生の松田桃子さんをお願いしました。

小林さんは、中学生のとき、学校を休みがちなところ、養護教諭の先生に励まされ、高校（能勢高校）に進学することが出来たこと。高校では、大学進学への焦りと自信のなさなどから、心が不安定になった時、保健室で先生方から優しく見守ってもらえたこと。このような先生方との出会いから、将来、自ら子どもたちを支え、励ましてあげることが出来るよう、養護教諭を目指し大学に進学したことについて力強く話してくれました。

また、松田さんは、都合により会場に来て発表することができませんでしたので、事前に書いた原稿をお父様に代読してもらいました。「農業クラブの意見発表会、生徒会や学校行事に積極的に参加できた経験を通じ、能勢高校の田舎の少人数制の学校というマイナ

スイメージすべてが本当はプラス要素であったことや、能勢高校だから出来ることがたくさんあることに気づいたこと。」がしっかり伝わってきました。さらに、特別にお越しいただいた松田さんのお父さんからは、子どもの希望をかなえてくれた能勢高校の先生方はまさに職人であるとの賞賛の言葉をもらいました。

2人の卒業生の発表を通じ小中高一貫教育の成果を確認するとともに、今後の取り組みの方向性や、連携の大切さなど、あらためて考えることのできる総会となりました。

姫路獨協大学 医療保健学部 こども保健学科 1回生 小林朋子さんの発表内容

実は、私は、小学校・中学校とクラス的环境になじめず、あまり学校に行きませんでした。学校に行こうとすると息が苦しくなり、家で倒れてしまう事も多々ありました。そのうち、勉強も手が付かなくなり、授業にも全くついていけなくなりました。基礎となる小学校の勉強が出来ていませんでしたから、中学校での成績はひどいものでした。

中学校3年生になり、周りの皆は高校進学を考えていましたが、私は正直、高校に行きたくありませんでした。特に能勢高校だけには絶対に行きたくないと思っていました。なぜなら、小学校・中学校と一緒にいた人たちの多くが能勢高校への進学を考えていたからです。「能勢高校に行ったら、またいじめられる…」そんな思いがずっと消えませんでした。それに、学力面でも合格できるかどうかとても不安でしたし、合格できたとしても進級できるかどうかと、不安は尽きませんでした。そんな私を励ましてくださったのは、保健室の舟木先生でした。舟木先生が「高校に行ったら、また世界が変わるよ。あなたなら大丈夫。」と言って下さったおかげで、私は能勢高校に進学しようと決意しました。

高校に進学してからは驚くほど環境が変わり、私にもたくさんの友達が出来ました。友達が出来たおかげで、生まれて初めて学校が楽しいと感じるようになり、勉強も進んでするようになりました。しかし、大学への進学を考えるようになった時、学力の壁にぶち当たりました。受けた模試はどれも合格可能性の低いE判定でした。特に中学校での学習内容が基礎となる英語と数学の成績は最悪でした。このときに初めて、小学校・中学校での勉強の大切さを知りました。それから、水嶋先生と東先生に協力していただき、中学校の勉強からもう一度やり直すことにしました。朝早くから、放課後遅くまでマンツーマンで教えていただきました。ですが、いくら勉強してもなかなか成績は変わらず、私は精神的に追い込まれていきました。焦り・不安・憤り。辛くて辛くて…。自分の夢も見失い、今生きていることにも不安を抱えてしまい、大学進学をあきらめようとも思いました。しかし、そんな私を助けてくださったのも、保健室の元田先生でした。

教室に入りたくない時や、しんどい時、私はいつも保健室にいました。保健室の先生は、そんな私をいつもやさしく見守っててくださいました。そして、それまで以上に勉学に励み、3年生の秋には無事に姫路獨協大学への進学を勝ち取ることが出来ました。今はとても素敵な仲間たちに囲まれて、毎日楽しい大学生活を送っています。全く勉強が出来ない私でしたが、今はこうして大学生になれました。だから、能勢町の後輩たちも勉強が出来ないからといって、夢をあきらめないで欲しいと思います。どんどんいろんなことにチャレンジして、前へ前へと進んでいてください。そういう意味で、「出来ない子は



いない」と私は確信しています。将来は今までの自分の経験を生かし、子どもたちを支え、励ましてあげることの出来る養護教諭になりたいです。

和歌山大学 観光学部 1回生 松田桃子さんの発表内容

私は能勢高校に進学するときに、能勢西中学校生ではあったのですが、実は小論文と面接による中高一貫入試ではなく、総合学科入試を受けて入学しました。中学生の頃に私が目指していた高校は、能勢高校ではありませんでした。そういった訳で行きたい高校に進学するために自分なりに頑張っていました。けれども、受験の間際にその高校に合格するのは難しいと言われてしまいました。「その高校に行けないのなら」という思いで、家からも近く、海外研修や留学生受入れ制度も整っている能勢高校に進学することを決めました。

能勢高校に入学した私は、柔道部マネージャーとして柔道部に所属しました。私にとって柔道部に入ったことが、人生を大きく変えるきっかけになったと思います。柔道部の顧問の先生が、大学進学に対してあまり積極的ではなかった私に、私にあった大学を進めてくださったりして、熱心にアドバイスをしてくださいました。その先生のおかげで、その後農業クラブに入って意見発表会等の行事に参加したり、生徒会会長に立候補したり、学校行事に積極的に取り組むなど、私の中で「進学できる自分」に近づこうとする意欲がわいてきました。大学受験が近づいてきて、準備をしていた時には、顧問の先生をはじめ、多くの先生が私のために時間を割いていただき、先生方にはたいへんお世話になりました。そのおかげで、私は無事に和歌山大学の観光学部に合格することが出来ました。

能勢高校で私が学んだことはたくさんあります。正直なところ、能勢高校に入学した当初は能勢高校にあまり期待していませんでした。小学校からほとんど変わらないメンバーでは、中学校と同じような三年間になるだろうと思っていました。しかし、実際に能勢高生になって、三年間を過ごすと、過去の能勢高校のマイナスイメージが全てプラスの要素であることに気がつきました。田舎であることで、能勢高校特有の農場での学習ができ、現在注目されている「生物多様性」について深く学ぶことが出来ました。少人数制であることで、先生方が一人ひとりの生徒に対して、手厚く一生懸命に付き添ってくださいました。能勢高校は、他の学校にはないものをたくさん持っている学校だと思います。

私の大学生活はまだ始まったばかりですので、観光学の知識などはまったく身につけていませんし、将来の自分の夢もまだ明確ではありません。ですが、もしも将来観光に携わるような仕事に就いたときには、何らかの形で能勢町の町おこしに貢献できればと考えています。観光学から広くいろいろなことを学べるように頑張っていきたいと思います。

後輩たちには、「自分は能勢高生だから…」とあって勉強をあきらめがちな人が多いように思いますが、「あきらめずに勉強に励んで欲しい。」ということと、「勉強というのは授業や塾で教えてもらうようなことだけではない。」ということをお伝えたいです。高校の学力レベルは関係ありません。農場や、校外行事、少人数のため比較的行きやすい生徒会活動など、「能勢高校だから出来ること」というのがたくさんあります。それに、いっしょけんめい取り組めば、他のどんなに学力レベルの高い高校の生徒にも十分に張り合えるだけの武器を、自分が身につけることとなります。面倒に思わず、先生に頼ったり、柔軟な考えを持ったりして、いろいろな角度から自分の将来の道を見つけて欲しいと思います。